

# チーム えがお

【学校教育目標：たくましく生きる児童の育成】

・やさしい子 ・考える子 ・元気な子 ・やりぬく子

発行者：校長 岡田 達也

～ えがお かがやき がんばる 学校 困うえんだん 「チーム北川」



## 【教育コラム】『ほめる』ことの大切さ！

当たり前のことですが、人は日々、様々な判断をしながら生活しています。子どもも同様に、毎日主体的に（＝自分なりに）判断しながら生活しています。そのときに大切なことは、よりよい判断をすることができるかどうかです。「考える」、「行動する」の繰り返しの中で、子どもたちの判断力を育てていきたい旨は、これまでもお伝えしてきました。子どもたちの判断力を育てるためには、子どもたちの心の中に正しい判断基準を育てていくことが重要です。

子どもは、いろいろな体験を通して教師や保護者等の周りにいる大人からほめられたり、叱られたりすることで、行動の基準を学び、自分の行動を改めたり、よりよくなりたいたいという意欲をもったりします。その過程で、子どもたち一人一人の中に判断基準が育っていくのです。そう考えると、子どもと関わることの多い我々周囲の大人（保護者や教師など）の「ほめ方」「叱り方」は大切な要素となります。そのためには、子どもたちの様子をよく観察し、子どもの意欲が高まるように声かけをしていかなければなりません。適切にほめたり、叱ったりすることで、子どもたちとの信頼関係を築くことができます。その信頼関係の中で、規範意識も育っていきます。

「なぜ、ほめるのか？」と聞かれたらどう答えますか。私なら、「子どもの成長をうながすから。」「子どもに自信をもって生活してほしいから。」と答えるでしょう。子どもの心に届く（響く）「ほめ方」のポイントとしては、次の3点がよく言われます。

- ★何がよかったのか具体的にほめる
- ★結果だけでなく、その過程もほめる
- ★ほめることによって子どもを動かそうとするのではなく、感動を素直に伝える

たくさんほめることができるということは、それだけ子どものことをよく見ているということです。ほめ方にはいろいろな技術があると思いますが、大切なことは「心を込めてほめよう」という思いではないでしょうか。「心を込める」とは、相手に対する期待感であり、信頼感であり、思いやりです。厳しい口調にも期待や信頼は込められるものです。

「人は周りの人から、どのように扱われているかに合わせて振る舞う」という言葉がありますが、人は常に周囲からの刺激や期待や信頼に敏感に反応して行動します。その行動が相手に伝わり、互いに反応し合って、お互いの信頼関係ができあがるのだと思います。「ほめること」は難しいけれども、とても大切なことです。

今週から、運動会に向けた本格的な練習が始まりました。子どもたちと先生たちが一緒になってがんばっています。ぜひ、意欲を高めることができるような言葉かけをお願いいたします。ときには、やろう、がんばろうと思っていても、うまくいかないこともあります。でも、子どもたちのやろう、がんばろうという思い、そのための行動は、かけがえのないものです。どんな結果よりも輝いています。その輝きを見逃さないで、ほめてください。ほめられていやな子どもは、一人もいないと思います。